

「学習意欲が低い」「学力が定着しない」「学校全体で取り組みたい」などの悩みを解決する

児童が意欲的に取り組み、低学年からのつまずきを解消する取組

呉市立広小学校では、「学習意欲が低い」「学力が定着しない」という課題を「学校全体で取り組んで解決したい」という思いをもち、低学年からの学力の定着を図るために「研究授業の充実・授業改善」「放課後補充学習の充実」に取り組んできました。

1つ目の「研究授業の充実・授業改善」では、「授業が児童にとって意欲的に取り組みたくなる学習内容」、「学習理解ができるような全体への手立てと個への手立て（視覚化・焦点化・共有化・動作化等）」を工夫してきました。そして、個へ焦点をあてた研究授業を通して学校全体で授業改善の方向性を共有化することができました。

2つ目の「放課後補充学習の充実」では、授業の学習の内容がより定着するように、児童のつまずきに応じた教材を準備して、つまずいている内容が定着できるよう学校全体で取り組みました。これらの取組によって、昨年度標準学力調査では、1～3年生の学年平均点は、国語・算数ともに全国を上回り、特に算数はいずれの学年も全国比+5ポイント以上と、低学年段階のつまずきが解消されてきました。授業における児童アンケート、「これまで習ったことを使って、問題の解き方を考えて、学習している。」では、肯定的評価94%と学習意欲の向上も見られます。



個に焦点をあてた 研究授業の充実・授業改善

第2学年 算数科「三角形と四角形」の事例

実態把握と手立ての検討(事前)

付けたい力の明確化

三角形、四角形を知り、作図したり弁別したりすることができる。

実態把握

前の学年に学習したことや単元に必要な学習内容の定着状況を把握するためのテストを行います。

実態把握テスト

- ①まっすぐな線のことを()という。
- ②5cmの直線をひきましょう。
- ③△の色板を4枚ならべて、□の形をつくりましょう。

手立ての検討

レディンテストを基に、つまずきの大きかった児童の定着している力とつまずきの要因を検討し、効果的な手立てについて考えます。

学年→ブロック→全体



実態の検討

三角形を組み合わせて四角形を作ることができていない。辺の数や辺の長さに着目できるような手立てが必要だな。

直線という言葉が分かってない。辺や頂点など算数用語や向かい合うという意味が分からないかもしれない。

個の実態に応じて

手立てのアイデア

- ①視覚化・操作化して図形の定義を理解できるようにしよう。
- ②辺に着目できるように辺に色を付けて焦点化しよう。
- ③算数用語の意味が理解できるように言葉を考えよう。
- ④図形の性質を動作化して理解できるようにしよう。

実践(授業の流れ)

導入

単元を貫くゴールを設定し、学習意欲を高めます。

単元のゴール
おもちゃ祭りで使う形パズルをつくらう。

手立て

つまずきを解消するために効果的な視覚化、焦点化、共有化、動作化などの手立てを行います。

向かい合う辺の長さが等しくないから長方形じゃないよ。

辺が切れていて囲まれていないから長方形じゃないよ。

学び合い

自分達の考えを伝え合って理解を深めます。

まとめ

教科の見方・考え方のポイントとなるキーワードを示します。

ふり返り

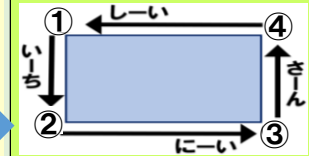
視点を示して行います。

ふり返りの視点

わ..わかったことが..がんばったことと..ともだちから学んだことも..もっと知りたいことに..にちじょう生活に広げられること

辺をなぞることで図形についてよく分かったよ。向かい合う辺などの言葉でどんな図形か説明することができたよ。

手立ての具体



①視覚化・操作化

「いーち。にーい。さーん。しーい。4本の直線で囲まれているから四角形」

②焦点化

向い合う辺に色を付けて長さに着目できるようにする。

③共有化

「辺は、へーん」「頂点はツツンしていたところ」

④動作化

向い合う辺は、賞状をもつ手の位置。

手立ての検証(事後)

事前に把握したつまずきの大きい児童の授業での様子や記述内容をもとにして、手立ての効果や改善案について協議します。

授業観察シート

算数科「三角形と四角形」 研究協議会 (児童〇)	
児童の実態 (授業前)	授業での児童の様子
つまずきの要因	〇効果的だったこと
手立て	●改善案
本単元と各学年の関連のある単元の指導で押さえてほしい内容	

効果的な手立てについて検証し、授業改善の流れを共有することができました。

児童の姿を基にした手立ての検証

辺をなぞることで辺の数に着目して図形を判断できていたな。

課題は色々な図形が混ざると、区別するのが難しそうだったな。

辺や角などの算数用語を正しく使っていて、意味が理解できていたな。

動作化したことで向かい合う辺や図形の性質を理解できていたな。

放課後補充学習の充実

実態把握と教材の検討

実態把握と保護者連携

保護者に放課後補充学習のねらいや日時などについて知らせます。授業やテストなどから、児童の実態を把握して、参加する児童を決めます。

たくさん図形があると長方形と正方形がまだよく分からないな。

教材準備

学習につまずいている内容が身に付くようなプリント等を作成します。

長方形や正方形の定義を確認してから図形を探させる問題を用意しよう。

実践

個別指導

学年の先生で、個別の指導を行います。



辺の数を指でなぞりながら数えてみよう。辺の長さはどうかな。角は直角かな。

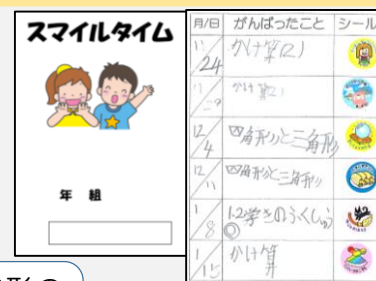
指でなぞったり直角を確かめたりするとよく分かった。

振り返り

がんばりカード

学習したことを記録させ、事後に自己評価させたり、ご褒美シールを貼らせて満足感をもたせます。

長方形と正方形の違いがよく分かってうれしいな。



授業でも自信をもって発表できそう。

保護者・先生の声



保護者

学習で心配なことがありましたが、先生方が丁寧に見てくださるので力が付いてきてうれしいです。



先生

個別指導を通して児童のつまずきがより分かり、授業での手立てに役立てることができました。